

令和3年度学校評価結果について

広野小学校長 河上 正信

I 学校評価の実施にあたって

広野小学校では、令和3年度の学校評価を次のような方法で実施した。

1. 評価基準は「A：はい B：どちらかといえば『はい』 C：どちらかといえば『いいえ』 D：いいえ」に統一した。その上で、「A：はい」「B：どちらかといえば『はい』」を高い評価として捉え、それ以外を低い評価（反省すべき項目）として、その要因を分析した。
2. アンケートを通じた児童、保護者、教職員の評価については、令和2年度との比較の上で今年度の教育について分析した。分析では、まず、継続して評価がよかったものについてその内容と方策を検討し、より一層高められるように取組に生かされればと考える。また、重点項目について、前年度より優れていたもの、逆に劣っていたもの、前年度同様に評価の低かったもの、今年度の教職員が低い自己評価をおこなったもの等について取り上げ、分析した。
3. アンケート項目のうち、児童、保護者、教職員の3者に類似した内容がある場合は、3者のとらえ方の違いも分析する上での判断材料とした。
4. 上記の方法でまとめたものを、学校を外部から観察していただいている3名の学校運営協議会委員の方に送付し、2月下旬の運営協議委員の席でご意見を伺った。ここでご指摘いただいた内容についても、教職員の反省を加え末尾に掲載している。
5. まとまった学校評価については、今年度中に広野小学校ホームページで公表する。

上記の方法で分析したことを、次に述べる。

II アンケート分析と考察

1. 継続してよかった評価

(1) 授業や活動について

(アンケート該当項目 児童4, 6, 7, 14 保護者2, 3, 4 教職員2, 3, 7)

どの項目も昨年に続き向上の傾向にある。特に授業中自分の考えを発表している児童や勉強時間に新しいことを知ることが楽しいと感じている児童が増えている。それは、児童の学習状況を客観的に把握し、指導方法を工夫し、児童の考えを発言できる機会を設定する授業展開を心がけているからだと思う。また、学習課題やめあてを提示し、1時間の学習の流れを分かりやすくし、振り返りを大事にする授業を実施しているからだと思う。外遊びをする児童や掃除を一生懸命する児童も多く、朝の運動・外遊び週間の実施や縦割り班掃除での振り返りを大切にする等、児童の意欲を高める活動を継続しているからだと思う。今後も児童が楽しく活動し、分かる授業や児童が主体的に活動できる取組を続けていきたい。

(2) 学校生活・友達関係について

(アンケート項目 児童8～13 保護者5 教職員5, 12)

学校へ行くのが楽しいと思う児童の割合が増えている。友達関係が良好で、学級の友達や異学年の縦割り班で行う活動や行事の内容も工夫され充実しているからだと思う。その中で、高学年の児童は低学年の児童にやさしく接し、活動の仕方や方法を教え、低学年の児童は高学年の児童の姿を見て、友達や人との関わり方を自然と身につけ、それが受け継がれていく伝統がある。また、友達を大切に思う気持ちがあり、自分の思いや考えを受け止めてくれる友達の存在も大きいと思う。ここから、児童相互の人間関係や児童と教師の人間関係も良好であることが、アンケート結果からもうかがえる。さらに毎年人権集会の時期に合わせ、自分達の生活を見直し自分や友達のことを振り返っている。こうしたことで、自分や友達を大切にしようとする感性も育っていると思う。

(3) 環境や施設・設備の安全点検，安全確保について

(アンケート項目 児童14，保護者6，15，16 教職員14，15)

校舎内の環境が整えられ，施設・設備の安全点検が定期的に行われ事故防止を心がけている。毎月の安全点検だけでなく，日頃から環境に目を配りながら，児童の事故防止を心がけている成果だと考える。また，児童も掃除を一生懸命することで校舎の美化が保たれている。

2. 重点項目に関わる評価

(1) 基本的な生活習慣について

(アンケート項目 児童1，2)

生活リズムチェックの継続的な取組の成果として，よい結果である。しかし，早寝早起きについては，ほとんどの児童が「はい」「どちらかといえばはい」と答えているが，早寝早起きを含め，生活リズムが整っていない児童も見られる。朝ご飯については，「はい」と答える児童がほとんどである。朝ご飯の大切さを食育指導等で児童に伝え，保護者への啓発が進んだ結果だと思われる。また，近年，メディア使用時間についても，長時間使用している児童もみられる。早寝・早起き・朝ご飯の習慣をつけ，一日の生活リズムを整え学校生活をより豊かに送れるように指導を継続していく必要がある。

(2) あいさつについて

(アンケート項目 児童3，保護者1，教職員4)

児童・保護者・教職員とも年々よくなってきている。朝会や学級であいさつについて話をしたり，学校だよりや学年だよりで保護者へ啓発したりした結果であると思う。特に，保護者の結果が向上したのは，家庭においてもあいさつの大切さについて話をしているからだと思う。しかし，声が小さかったり，あいさつの仕方や意識については個人差があり，子ども自身と保護者や教職員の評価に違いがみられる。あいさつは人と人をつなぐ第一歩である。あいさつをするということだけでなく，声の大きさ，相手の顔を見て，相手より先にあいさつできるように，継続して指導していきたい。

(3) 家庭学習について

(アンケート項目 児童15，保護者8)

「はい」「どちらかといえばはい」と答え，ほとんどの児童が宿題をしている意識をもっている。保護者は児童と比べると「はい」と答える割合が減り，家庭学習(宿題)に対する児童との意識にずれがあると思われる。児童は，宿題をすればそれでよいという意識があり，保護者は，家でも学習してほしいという意識があるのではないだろうか。毎日，家庭で必ず学習することも大切であるが，家庭環境や学年の発達段階において無理な場合もある。家庭学習の習慣を身につけさせるには，現在も取り組んでいる，音読や日記は必ず家庭でする。その上で，休日，家庭でする課題を出す等，学年の発達段階に応じて課題の持たせ方や内容を検討し，家庭学習の方法を保護者と共通理解していく。

(4) 学校や家庭での読書活動について

(アンケート項目 児童16，保護者7，教職員7)

ほとんどの児童が，「はい」「どちらかといえばはい」と答え，読書習慣が身につけている。学級文庫の本や図書室の本が充実し，児童の興味が持てるような，図書室のレイアウトが工夫されているからだと思う。しかし，保護者は，「はい」「どちらかといえばはい」の割合が低い。また，「いいえ」の解答もあり，児童との評価にずれがある。保護者には，毎日の音読(高学年は読書)ができていているという設問になっているために，読書と音読の違いから評価にずれがある。また，児童は，学校で読書ができていているから，できていると捉えていると思われる。さらに，家庭でのメディア使用時間も含め，生活習慣とも関係があると思われる。

(5) 情報発信・情報公開について

(アンケート項目 保護者9，10，教職員16)

ホームページや学校だより・学年だよりに，児童の活動の様子や保護者へのお知らせ

せ等を掲載し、情報発信を行っている。特に、ホームページでは学習や行事の様子を日々更新し、児童の学校での活動が分かるようにしている。しかし、保護者は、「1ヶ月に数回」「ほとんど見ない」が半数を占める。毎日見るのは難しいが週に1回程度は見ていただきたい。そのためには、記事の内容・レイアウトを工夫したり、保護者に機会に応じてホームページの宣伝等をする必要があると思う。また、学校の教育目標や経営方針については、PTA総会や役員会、学級懇談等で伝えるだけでなく、学校だより等で常に載せておく等、発信の工夫が必要である。

(6) 開かれた学校づくりについて

(アンケート項目 保護者12, 13, 17 教職員20, 21, 22)

昨年度に続き、コロナ禍において、授業参観やPTA行事が中止、縮小となっている。その中で、開催方法を工夫し、児童の活動の様子を保護者に公開してきた。また、電話連絡等で児童の学校の様子を伝え、保護者との連携を行っている。今後、保護者との連携を深め、互いに協力してPTA活動を進めたり、授業参観等を通して児童の活動の様子を見ていただいたりして、開かれた学校づくりに努めていきたい。

III 学校運営協議会委員からの意見

- コロナ禍においても少人数のよさを生かし、工夫をして学習活動や学校行事が行えている。このことがアンケート結果からもうかがえる。
- 友達や先生方、知っている人には、十分あいさつができているが、地域の人や道で会った人等にはできていない時がある。時代的な要因(防犯的な要因)もあるが、地域の人とふれあう機会の減少が一因と考えられる。また、コロナ禍においてふれあう機会がなかったことも影響しているのではないか。
- 家庭学習については、一日30分程度机に向かって学習や読書をする習慣を身に付けさせることが必要ではないか。
- 今の世の中、ネットやSNSの発達により本を読まないことが普通になっているが、本を通じていろいろな事に興味をもってもらいたい。
- 保護者がホームページを見る頻度については、保護者のインターネットやスマートフォンの利用頻度にもよるが、学校だよりや学年だよりで行事等の学校の情報を得ているのではないだろうか。

IV 改善に向けての具体的な取り組み

今回の学校評価のまとめから、次年度は次のことを重点課題として取り組む。

1. 学力向上に向けて

(1) 基礎学力の定着と主体的・対話的で深い学びの実践

- ①基礎・基本を定着させるために、学習したことをドリルやプリント等で繰り返し行う。また、個別課題を与え、能力差に応じた取組を進める。
- ②主体的に学習に取り組めるように、授業のはじめに学習のめあてを提示し、児童が見通しをもって学習に臨めるようにする。
- ③児童の学習の振り返りを適切に評価し、指導の反省を行い、次時の指導に生かせるようにする。
- ④表現力を高めるために、学年の発達段階に応じて、自らの考えや思い、思考の過程を文章に書く機会を設け、自らの考えを進んで発言できる力がつくような授業展開を心がける。

(2) 家庭学習の取組

- ①家庭学習の手引きを学年当初に配布するだけでなく、学期の始めに再度確認をしたり、懇談等でも保護者に説明したりして、宿題以外の家庭学習の仕方を身につけさせる。
- ②週末の自主学習の充実を図るために、テーマや課題を与える。また、内容がよかった自主学習ノートを掲示し、児童の自主学習に対する意欲を高める。

③平日は、音読・日記は必ず家庭で行い、週末には家庭で行う課題を与え、保護者がチェックする機会も設ける。

(3) 読書習慣の定着

①家庭で読んだ読書の内容を日記にまとめたり、紹介したりする機会を設けるなど、家庭読書に課題を設定する。

②週末読書で、親子で読書をしたり、読み聞かせをしたりする機会を設けることを保護者に呼びかけたりする。また、おすすめの本も紹介する。

(4) ICTを活用した授業実践

①GIGAスクール構想に伴う一人1台のタブレットを活用した授業が展開できるように授業での活用方法の研修を深める。

②一斉学習・個別学習・協働学習の場面でのタブレットの有効活用について研究を深める。

2. 基本的な生活習慣の確立

(1) 規則正しい生活の習慣化

①生活リズムチェックを継続して行い、自分の生活リズムについて見直す意識付けをする。また、年度はじめにリズムチェックで基準とする時間を児童・保護者に知らせる。

②「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣がきちんと身につく規則正しい生活が送れるように、保健学習や学活等で指導していくとともに、保健だよりや学年だよりを通して保護者に啓発し、保護者との連携をより一層進めていく。

(2) メディア使用

①メディア使用時間等児童の実態を把握し、メディアコントロールチャレンジで児童のメディアに対しての意識付けを図る。

②長時間のメディア使用が心や体へ及ぼす影響を指導するとともに、保護者に対しても啓発を行い、家庭における児童のメディア使用について保護者とともに考える。

(3) あいさつ

①あいさつの仕方や意義についても常時指導を行い、「いつでも、どこでも、だれにでも」あいさつができるように定着を図っていく。

②学校運営協議会委員のみなさんや地域の方にも学校の取組を伝え、地域のみなさんの協力をいただきながら、学校・保護者・地域一体となってよりよいあいさつができるように努める。

3. 開かれた学校と情報公開・発信

(1) ホームページ

①学習や行事の様子の掲載など更新を継続して行い、新しいコーナーを考え、発信内容の工夫に努める。

②学校だより等にホームページのQRコードを掲載し、スマートフォン等から簡単にアクセスできるようにする。

(2) 教育目標

①教育目標や方針は、PTA役員会や学級懇談等で分かりやすく説明し、理解を求めていく。

②学校だよりなどに常に教育目標を掲載するなど、保護者等が視覚的に捉えられるようにする。

(3) PTA活動・保護者との連携

①PTA役員会や学級懇談等を通して、学校から情報発信するとともに、保護者からの意見や要望を受け止め、話し合いを通して連携を深め、PTA活動を充実させる。

②学校からのお知らせはやおたよりは、配布の時期を考え、内容も分かりやすくする。